

準グランプリ



家庭菜園が地球を救う

中澤 静男様



かつて、私は小学校教員をしていました。その頃は1年生から理科があり、1年生はアサガオ、2年生がヒマワリ、3年生でアブラナ、4年生はヘチマ、5年生でカボチャ、6年生でジャガイモを栽培して学習することになっていました。だから、栽培に失敗することは許されません。そこで私は庭で家庭菜園を始めました。近所のおじさんからアドバイスをもらってやつてはみたものの、最初は作物ができたりできなかったりという状況でしたが、今では、夏も冬も野菜は完全自給しており、奥さんもニコリです。無農薬有機栽培で作った野菜を近所や職場で配ると、とても喜ばれます。

最近では孫がやって来て、楽しく収穫してくれます。自分で収穫した野菜だと食べるようになってきたそうで、よかったです。

最近、SDGs(持続可能な開発目標)の話をよく耳にします。私も地球のために何かしたいと思っていました。ふと、気がつきました。私の家では家庭菜園をするようになってから、かれこれ30年ほどの間、生ゴミはすべて畑に肥料として投入しており、一度もゴミに出していません。生ゴミはほとんどが水分です。燃料を使って焼却処分するなんて、馬鹿らしい話です。私は、ただ畑の肥料にと思っていただけですが、結果的にエネルギー資源の節約と二酸化炭素の排出量削減になっていました。

持続可能な社会づくりのためには、経済と環境と社会のバランスが大切な

審査員講評

家庭菜園の無農薬有機栽培で作った野菜で自給自足、さらには近所や職場で配布して喜ばれたりお孫さんと一緒に収穫したり、周りの人と楽しくコミュニケーションを実践しておられることが何よりのセラピー効果と評価されます。また人類の目標であるSDGsを意識して取り組まれていることは地球人として大変素晴らしい。植物と触れる家庭菜園というガーデンで家庭円満、近所づきあいや職場でも良好で、セラピー効果万点、ますますお元氣になっておられる様子が目に浮かびます。



グリーン情報
編集部